

# 園芸タイムリー情報





## 《8月上・中旬版》

令和3年7月30日発行 第6号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel: 0166-84-2017 Fax: 0166-84-2009  
 E-mail: asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage: http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通

- 天気は平年に比べ晴れの日が多くなり、平均気温は高く、降水量は少なく、日照時間は多い見込みです。
- ①ハウスは高温で経過する日が多く、葉やけ、落花、日焼け果等の高温障害に注意します。換気に努めるとともに、かん水と追肥・葉面散布を適切に行い、草勢維持と着果安定に努めましょう。
  - ②遮光資材は、栽培品目に応じて遮光率を選択し、曇天時の被覆は避け、過度な遮光にならないように注意しましょう。
  - ③高温期は収穫後の鮮度や内部品質が低下しやすいため、朝夕の涼しい時間帯に収穫し、速やかに倉庫や予冷庫に搬入しましょう。
  - ④各種病害虫の多発時期を迎えるため、適期薬剤防除に努めましょう。特に、高温期に多発する軟腐病、アザミウマ類、コナガ、アブラムシ類、ハダニ類、及び草勢低下や軟弱な生育で発生しやすいうどんこ病、べと病に注意します。
  - ⑤熱中症防止や疲労回復のため、定期的に休息を取り、水分だけでなく塩分補給も行いましょう。

※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用してください。

| 作物名  | あぶらな科野菜全般   | 作物名  | あぶらな科野菜など葉菜類全般   |
|--|---|--|--|
| 病害虫<br>生理障害名   | コナガ成虫   | 病害虫<br>生理障害名   | ウスカワマイマイ   |
| コナガ  |   | ナメクジ類<br>カタツムリ類  |  |
| 発生状況   |  | 発生状況   |  |
| 中発生  | 幼虫による葉の被害   | 少発生  |  |
| 発生時期   |   | 発生時期   |  |
| 5月下旬～  |   | 4月中旬～  |  |
| 発生の状況・要因   |   | 発生の状況・要因   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼虫が葉裏に潜み、葉の表皮を残して食害する。</li> <li>・比布町では7月の成虫の飛来数が平年よりやや多くなっている。</li> <li>・7月は幼虫による被害が目立つため、今後も注意が必要である。</li> </ul>                                  |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナメクジ・カタツムリは、ほ場周辺の雑草地、石の下、日陰など暗くて湿気の多い場所を好み、地中で越冬する。</li> <li>・葉の食害の他、本体やフンの混入が問題となっている。</li> <li>・雨天時や夜間は活発に活動する。</li> <li>・7月後半は少雨のため、発生は減少している。</li> </ul> |  |
| 対策   |   | 対策   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほ場内外の雑草をこまめに除草する。</li> <li>・防虫ネット（目合い1.0mm）を、侵入口となる隙間を作らないように設置する。</li> <li>・ジアミド系（プレバソフロアブル5等）への薬剤抵抗性個体群の出現があり、防除効果が劣る場合は他系統の薬剤に切り替える。</li> </ul> |   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・常発ほ場では通気を良くして湿気を放出する。</li> <li>・ハウス内外をこまめに除草する。</li> <li>・スラゴを使用する場合は作物周辺あるいは株元の土壌表面に散布し、作物に付着しないように気をつける。</li> </ul>  |  |
| <防除の一例><br>●プレオフロアブル（品目ごとに登録内容が異なるので注意）<br>こまつな・みずな： 1,000倍 収穫前日まで 2回以内<br>チンゲンサイ・ターサイ：1,000倍 収穫7日前まで 2回以内   |   | <防除の一例><br>●スラゴ 1～5g/m <sup>2</sup> (3.3～16.5g/坪) 発生時  |  |



| 作物名  | すいか・メロン・きゅうり   |     |
|--|--|-----|
| 病虫害生理障害名   |  |     |
| ハダニ類   |  |     |
| 発生状況   |  |     |
| 少発生  | きゅうり   | すいか |
| 発生時期   | メロン  |     |
| 6月上旬～  |  |     |
| 発生の状況・要因   |  |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に寄生し、吸汁により葉の表に白いかすり状の斑点が現れる。発生密度が高くなると葉全体が黄変枯死する。</li> <li>高温乾燥を好むため、ハウスでは露地よりも早く発生する。</li> </ul>  |  |     |
| 対策   |  |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>ハウスでは、侵入しやすい出入り口やサイドなどの開口部付近を中心に、よく観察する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤年1回の使用に止めるローテーション防除を行う。</li> </ul> <防除の一例><br>●ピラニカEW<br>すいか・メロン：2,000～3,000倍 収穫3日前まで 1回<br>きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 1回<br>●カネマイトフロアブル<br>すいか・メロン・きゅうり：1,000～1,500倍 収穫前日まで 1回 |  |     |

| 作物名   | メロン・きゅうり  |  |
|---|---|--|
| 病虫害生理障害名  |  |  |
| うどんこ病   |   |  |
| 発生状況  |   |  |
| 少発生   |   |  |
| 発生時期  | きゅうりの葉表に発生した白いかび  |  |
| 7月上旬～   |   |  |
| 発生の状況・要因  |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>葉や茎の表面にうどん粉をふりかけたような白斑を生じ、多発生の時は果柄やへたなどにも発生し、商品価値が低下する。</li> <li>例年、生育後半に発生が多くなるが、今年の乾燥条件により発生が早まった。</li> <li>過繁茂になると発生しやすい。</li> </ul>  |   |  |
| 対策  |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場を乾燥させすぎない。</li> <li>初発を確認したら薬剤散布を実施する。</li> <li>被害葉や果実は摘除し、残さは適切にほ場外へ搬出する。</li> </ul> <防除の一例><br>●フルピカフロアブル<br>メロン・きゅうり：2,000～3,000倍 収穫前日まで 4回以内<br>●ストロビーフロアブル<br>きゅうり：3,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>メロン：2,000～3,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>※ストロビーフロアブルへの浸透性展着剤の加用は薬害を生じる恐れがあるので避ける。 |   |  |

| 作物名  | すいか・メロン・きゅうり   |  |
|--|--|--|
| 病虫害生理障害名   |  |  |
| アブラムシ類   | 写真：すいか(左)ときゅうり(下)に発生したアブラムシと被害葉  |  |
| 発生状況   |  |  |
| 少発生  |  |  |
| 発生時期   |  |  |
| 6月中旬～  |  |  |
| 発生の状況・要因   |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>葉の裏に群生し、吸汁害による茎葉の萎凋、排泄物による葉や果実の汚れが発生する。</li> <li>ハウス内は温度が高く、露地よりも増殖が早いので注意する。</li> </ul>  |  |  |
| 対策   |  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>きゅうりでは葉裏の寄生により、葉表の褐変が見られるので、ほ場をよく観察し、発生初期の低密度のうちに防除する。</li> <li>薬剤抵抗性の出現を防止するため、同一薬剤は連用しない。</li> </ul> <防除の一例><br>●モベントフロアブル<br>すいか・メロン・きゅうり 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●トレボン乳剤<br>すいか 1,000倍 収穫3日前まで 3回以内<br>メロン 1,000倍 収穫3日前まで 4回以内<br>きゅうり 1,000倍 収穫前日まで 3回以内 |  |  |

| 作物名  | きゅうり  |  |
|--|---|--|
| 病虫害生理障害名   |  |  |
| アザミウマ類   | 写真：花への寄生  |  |
| 発生状況   |   |  |
| 発生に注意  |   |  |
| 発生時期   | 写真：果実肩部分へのかすり状食害  |  |
| 7月中旬～  |   |  |
| 発生の状況・要因   |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>花や葉に寄生する。</li> <li>果実の肩部分にかすり状の食害痕が発生し、商品価値が低下する。</li> <li>通常、大きな問題にはならないが、今年は高温が続いていることもあり、アザミウマ類の発生量が多く、被害の発生が見られる。</li> </ul>  |   |  |
| 対策   |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場周辺の除草に努める。</li> <li>アザミウマ類は花の中にいるので、花の中をよく観察する。また、葉に寄生している場合は、葉にかすり状の食害痕が見られるので、ほ場をよく観察し、発生の増加が見られたら、農薬による防除を行う。</li> </ul> <防除の一例><br>●ハチハチ乳剤 1,000～2,000倍 収穫前日まで 2回以内<br>●モスピラン顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●ペネピアDO 2,000倍 収穫前日まで 3回以内 |   |  |




| 作物名  | トマト・ミニトマト  |    |
|--|--|----|
| 病虫害<br>生理障害名   |  |    |
| コナジラミ類   |  |    |
| 発生状況   |  |    |
| 発生に注意  |  |    |
| 発生時期   | 幼虫   | 成虫 |
| —  | 茎葉や果実のすす病  |    |
| 発生の状況・要因   |  |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>例年7月下旬から発生が見られるので注意する。</li> <li>茎葉を揺ると体長1mm前後の白い成虫が舞うように飛ぶ。</li> <li>中下位葉の葉裏には長楕円形で平たい幼虫や蛹が見られる。</li> <li>排泄物が茎葉や果実の表面に堆積したところにかびが生えるすす病が問題となる。</li> <li>高温期には増殖が早いので注意する。</li> </ul> |  |    |
| 対策   |  |    |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>発生を見逃さないように注意し、薬剤防除を実施する。</li> <li>黄色粘着板は本種の予察に有効である。</li> </ul>  |  |    |
| <防除の一例><br>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内<br>●ウララDF 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●モスピラン顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●モスピランジェット 50g/400㎡ (面積200㎡×高さ2m) 収穫前日まで 3回以内<br>※モスピラン顆粒水和剤とジェットは合わせて3回以内  |  |    |

| 作物名  | トマト類（大玉、ミニ）   |            |
|--|---|------------|
| 病虫害<br>生理障害名   |  |            |
| アザミウマ類   |   |            |
| 発生状況   |   |            |
| 発生時期   | 7月上旬～   |            |
| —  | 産卵痕による白ぶくれ症状  | ミニトマトの金粉症状 |
| 発生の状況・要因   |   |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>開花中の花で発生が見られており、果実への加害が予想される。</li> <li>トマト、ミニトマトで果実への産卵で白ぶくれ症状を生じる。</li> <li>ミニトマトではミカンキイロアザミウマの食害で金粉症状を示す。</li> </ul>          |   |            |
| 対策   |   |            |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>葉の食害や開花中の花を観察し、発生初期に薬剤散布する。</li> </ul>  |   |            |
| <防除の一例>トマト・ミニトマト共通<br>●ディアナSC アザミウマ類 2,500～5,000倍 収穫前日まで 2回以内<br>●ウララDF ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●コテツフロアブル ミカンキイロアザミウマ 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>※マルハナバチへの影響日数に注意 |   |            |

| 作物名  | トマト・ミニトマト  |              |
|--|--|--------------|
| 病虫害<br>生理障害名   |  |              |
| トマトサビダニ  |  |              |
| 発生状況   |  |              |
| 発生に注意  |  |              |
| 発生時期   |  |              |
| —  | 褐変した茎葉   | 果実での被害（さび症状） |
| 発生の状況・要因   |  |              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>例年7月中旬頃から発生が見られるので注意する。</li> <li>初めはハウス内の一部の株の下葉で発生し、徐々に上位の茎葉や隣接する株に広がる。</li> <li>葉は先端から黄変し、やがて褐変し落葉する。茎はほこりを被って汚れたように褐変し、果実はくすんだようなさび症状となる。</li> <li>高温乾燥時に発生が増加する。</li> </ul> |  |              |
| 対策   |  |              |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>高温期は増殖が早いので発生を見逃さずに薬剤防除を実施する。</li> </ul>  |  |              |
| <防除の一例><br>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内<br>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内<br>●コロマイト乳剤 1,500倍 収穫前日まで 2回以内<br>●マイトコーネフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 1回   |  |              |



| 作物名  | ピーマン、ししとう、なんばん  |                                      |
|--|---|--------------------------------------|
| 病虫害<br>生理障害名   |  |                                      |
| ヨトウガ・オオタバコガ  |   |                                      |
| 発生状況   |   |                                      |
| 中発生  |   |                                      |
| 発生時期   | ヨトウガの食害<br>卵塊で産卵<br>葉や果実表面を食害   | オオタバコガの幼虫<br>葉も食害するが果実に<br>食入する加害が多い |
| 6月下旬～  |   |                                      |
| 発生の状況・要因   |   |                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>オオタバコガの発生が中心となっている。幼虫は一頭ずつ分散し、果実へ食入する性質が強い。</li> <li>いずれも成長すると食害量が増え、薬剤も効きづらくなる。</li> <li>生長点からやや下の葉の上に虫糞が見られる場合が多いので注意して観察する。</li> </ul>   |   |                                      |
| 対策   |   |                                      |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期に登録のある薬剤で防除を行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;<br/>カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <p>●ブレバソフフロアブル5<br/>オオタバコガ 1,000～2,000倍 収穫前日まで<br/>ピーマン 2回以内 ししとう・なんばん 3回以内</p> <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <p>●コテツフロアブル ピーマン・ししとう・なんばん<br/>オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> <p>●アファーム乳剤 ピーマン<br/>オオタバコガ 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> |   |                                      |

| 作物名  | ピーマン  |  |
|--|---|--|
| 病虫害<br>生理障害名   |  |  |
| アザミウマ類   |   |  |
| 発生状況   |   |  |
| 中発生  |   |  |
| 発生時期   | ミカンキイロアザミウマ   |  |
| 6月上旬～  |   |  |
| 発生の状況・要因   |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ミカンキイロアザミウマとヒラズハナアザミウマが混在して発生しており、体色は種類や幼虫、成虫、雌雄により異なる。</li> <li>主に花に寄生しており、はたき落としにより1～2mmの黄色や黒の細長い微小な虫が素早く歩き回る様子が見られた。</li> <li>葉の奇形は見られない場合が多いが、へた等の褐変症状が見られ始めており、今後増加してくることが予想される。</li> </ul>  |   |  |
| 対策   |   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>発生確認は困難であるが、発生の増加している時期であるので他害虫との同時防除を実施するのが望ましい。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;タバコガ類やオオタバコガとの同時防除が可能<br/>カブリダニ類導入時にも使用可能</p> <p>●ブレオフロアブル 1,000倍 収穫前日まで 2回以内<br/>●スピノエース顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> <p>カブリダニ類導入時には使用不可</p> <p>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内<br/>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> |   |  |

| 作物名   | ピーマン・ししとう・なんばん   |                          |
|---|--|--------------------------|
| 病虫害<br>生理障害名  |  |                          |
| アブラムシ類  |  |                          |
| 発生状況  |  |                          |
| 中発生   |  |                          |
| 発生時期  |  |                          |
| 5月下旬～   | 葉裏の寄生状況<br>令和3年5月なんばん  | ピーマンの寄生状況<br>令和3年6月29日撮影 |
| 発生の状況・要因  |  |                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>モモアカアブラムシの発生が継続しており、有翅虫も見られているので場への再侵入に引き続き注意が必要である。</li> <li>モモアカアブラムシの体色は赤、緑、黄で、生長点付近や上位の新葉などに多く見られる。</li> </ul>   |  |                          |
| 対策  |  |                          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>多発すると防除が困難になるので、発生を見逃さないよう努める。</li> <li>生長点付近の未展開の葉や葉裏に寄生している場合は、薬剤がかかりづらいので、丁寧に行う。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;カブリダニ類の導入時にも使用可能</p> <p>ピーマン</p> <p>●ウララDF 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内<br/>●トランスフォームフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> <p>ししとう・なんばん</p> <p>●スタークル顆粒水溶剤 3,000倍 収穫前日まで 2回以内</p> <p>3品目共通</p> <p>●チェス顆粒水和剤 5,000倍 収穫前日まで 3回以内</p> |  |                          |



|   |          |
|---|----------|
| 作物名   | パセリ      |
| 病害虫<br>生理障害名  | かびに覆われた葉 |
| うどんこ病   |          |
| 発生状況  |          |
| 発生に注意   |          |
| 発生時期  |          |
| —   |          |
| <b>発生の状況・要因</b>   |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>葉の表面が白色粉状のかびに覆われる。</li> <li>ハウス内温度28℃前後で、乾燥した条件下で発生しやすい。</li> <li>例年の発生時期に突入しているため、発生に注意する。</li> </ul> |          |
| <b>対策</b>   |          |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場を乾燥させすぎない。</li> <li>発生前から予防的に薬剤散布を実施する。</li> <li>発病した葉は摘み取り、ほ場外に持ち出して処分する。</li> </ul>                |          |
| <防除の一例><br>(発生前に7日～10日間隔で散布)  |          |
| ●クリーンカップ 1,000～2,000倍 収穫前日まで —  |          |
| ●クムラス 500～1,000倍 — —  |          |
| (発生初期)  |          |
| ●アフェットフロアブル 2,000倍 収穫3日前まで 2回以内   |          |

- ◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病害虫の発生を最小限に抑制しましょう。
- ◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。  
 なお、品目ごとの栽培防除体系を基に、化学合成農薬の使用をできるだけ減らし、クリーンな野菜生産を実践しましょう。  
 気温が25～30℃以上となる高温時の散布作業は、作物に対する薬害の危険性が増大すること、散布者の健康被害が懸念されることからなるべく避けましょう。

※この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。  
 気象・土壌条件・作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
 ※掲載されている農薬情報は、令和3年7月21日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認くださいようお願いいたします。

■□■□■□■□ GAP手法の活用【食品安全編】□■□■□■□

— 野菜の衛生管理～設備・器具の管理～ —

農産物と接触する可能性のある設備・器具の汚れは、異物混入や病原微生物汚染の原因になります。定期的に清掃を行い清潔に保ちます。

- ・清掃用具は病原性微生物が繁殖する原因とならないように、洗浄・除菌を行ってから保管しましょう。  
 吊り下げフックなどを使用し、床への直置きは避けます。
- ・資材置き場や機器の下など、日常の清掃が行き届かないところは、埃溜まりがでやすくなります。定期的に確認し清掃しましょう。
- ・天井・照明器具・窓などの高所の汚れや埃は、落下による汚染源となることから、定期的に清掃しましょう。
- ・選果・調整器具は、使用後速やかに清掃・消毒し、清潔に保ちましょう。